

# 調査結果サマリー

## 新社会人の50%以上は「コミュニケーション」に関する不安を抱えている 2-3p

- 「社会人になる」ことについて、「期待」より「不安」が大きいと感じる(感じていた)人の割合が全世代を通して多く、特に新社会人～コロナ禍(2020年4月以降)に社会人になった人で不安の割合が大きい。
  - 新社会人における不安要素は「新たな人間関係の構築」(55.3%)や「上司とのコミュニケーション」(54.3%)などコミュニケーションに関する不安も強い。
  - 他方で、「入社前の不安はその後の中したのか」について現社会人に尋ねたところ、入社前に抱えていた不安の個数(平均5.4個)に対し、的中した不安(同2.3個)は半数以下。また「的中したものはない」と答えた人は約2割にのぼった。
- ☆不安を抱えるのは仕方ない。でも“杞憂に終わる”不安も多い。あまり心配せず新たな環境に臨むのが大事!?

## 実は若年世代の方が「リアルなコミュニケーション」を求めている 4-5p

- オンラインコミュニケーションの継続意向は6割以上にのぼる一方、「リアルを中心としたコミュニケーション」を取りたいと希望する人が全体の7割以上に。特に新社会人～2024年以降に社会人になる予定の学生世代の方が希望する人が多い結果となった。「授業や就職活動がオンラインになった」ことがわずらわしいと感じる、といったことが理由に挙げられている。
- また、「直接会ってコミュニケーションする方が楽しい」「気持ちや微妙なニュアンスは伝わる」「直接人と触れ合うことが大切」などデジタルネイティブたる若年世代もリアルでのコミュニケーションを重視する傾向が見受けられた。

## “瞳のチカラ”をもつ新入社員★を「応援したい」先輩社員が50%以上 6-7p

★入社1年以内の方

- 「アイコンタクトは重要」と認識する人は全世代で9割近くにのぼる。
  - 「アイコンタクトを意識したコミュニケーション」が「できている」「得意」と回答した人は、現社会人に比べて、新社会人～2024年以降に社会人になる予定の学生世代に多い。
  - “瞳のチカラ”を駆使してコミュニケーションを取り、心を通わせることができる≡“瞳のチカラ”がある新入社員★が職場に来た場合、「応援したい」(57.5%)、「話を聞いてみたい」(49.3%)、「助けてあげたい」「ミスをして許してあげたい」(同率38.4%)、「自分も頑張ろう」(35.6%)と感じるなど、前向きな気持ちも促進されている。
- ☆“瞳のチカラ”は新社会人にとっての武器であり、自分を助け、職場に良い影響をもたらす!?

### 「新生活に向けたコミュニケーションの実態調査」調査概要

■実施時期：2022年12月9日（金）～12月11日（日） ■調査手法：インターネット調査 ■調査委託先：マクロミル

調査対象：	属性	年齢	職業	男性	女性	合計
①社会人歴10年以上の社会人	現社会人	25～59歳	経営者・役員、会社員、公務員、 自営業、自由業	50人	50人	100人
②20年4月以前に社会人になった人、かつ社会人歴3年以上10年未満		25～59歳		50人	50人	100人
③20年4月以降に社会人になった人、かつ社会人歴3年未満		25～59歳		50人	50人	100人
④23年4月に社会人になる人	新社会人	20～29歳	学生	100人	100人	200人
⑤24年4月以降に社会人になる予定の人	学生	20～29歳	(短大、大学、大学院、その他学生)	50人	50人	100人
合計				300人	300人	600人

※以降のページでは①～③の対象者を「現社会人」、④の対象者を「新社会人」、⑤の対象者を「学生」と定義しております。

※構成比(%)は小数点第2位を四捨五入しています。合計しても必ずしも100%にならない場合があります。

# 新社会人の50%以上は「コミュニケーション」に関する不安を抱えている

## ● 新生活は「期待より不安が大きい」！ コロナ禍により、その不安はより高い傾向に？

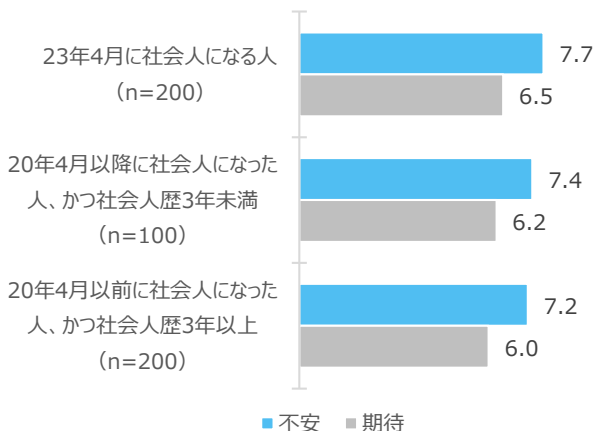
4月からの新生活を前に、社会人になる・仕事を始めることに対する「期待」と「不安」をどの程度感じるか、「0（全く感じない）～10（非常に感じる）」の11段階で回答いただきました。

その結果、どの世代でも期待より不安の方が大きくなっています。23年4月に社会人になる人（コロナ禍後入社予定）、20年4月以降に社会人になった人、かつ社会人歴3年未満（コロナ禍入社）と、20年4月以前に社会人になった人、かつ社会人歴3年以上（コロナ禍前入社）を比較したところ、コロナ禍入社以降の人の方がより不安が大きい傾向が見られました【図1】。

コロナ禍により、直接対面するよりオンラインでのコミュニケーションが増えたことが影響しているのではないのでしょうか。

【図1】 社会人になることへの期待値と不安値

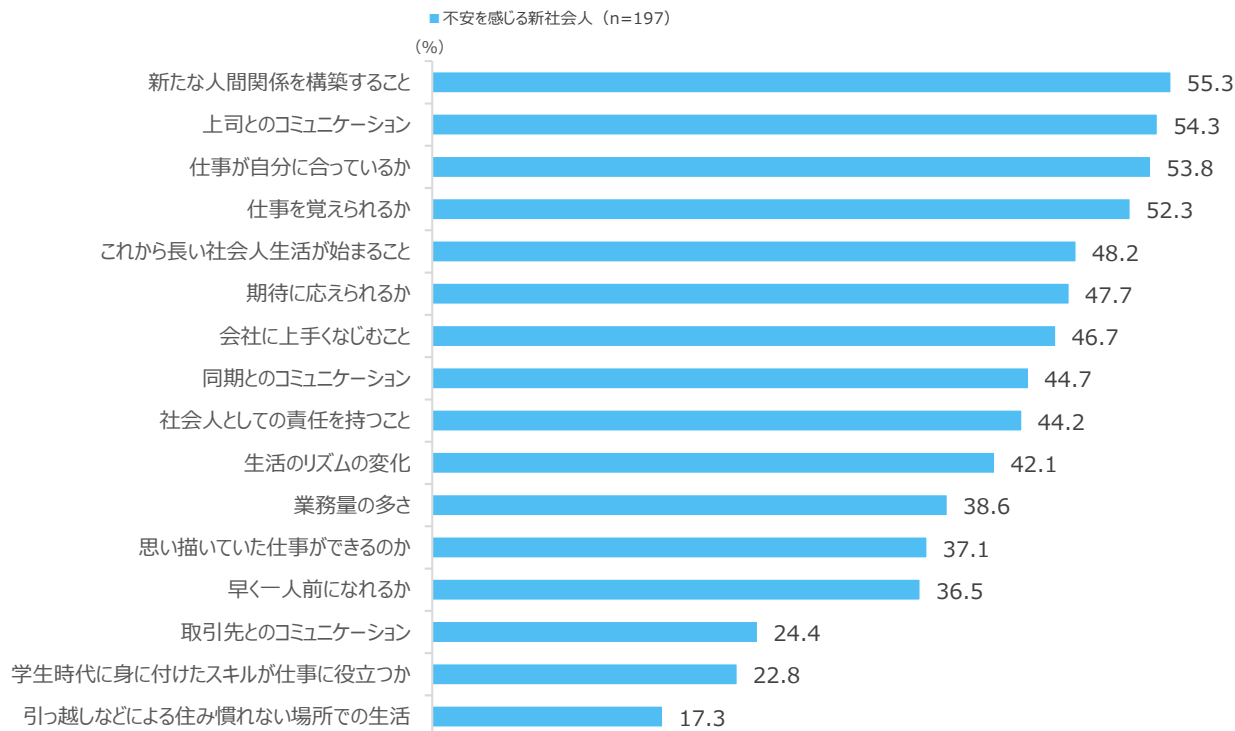
※現社会人の方は、自身が社会人になった当時を思い出して回答。



## ● 新社会人の不安要素は、人間関係やコミュニケーション

図1で「不安を感じる(不安な気持ちについて1～10のいずれかを選択)」と答えた23年4月に社会人になる人（新社会人）197人に不安を感じる内容を確認しました。すると、「新たな人間関係を構築すること」（55.3%）、「上司とのコミュニケーション」（54.3%）といった人間関係やコミュニケーションに関する不安が強く、次いで「仕事が自分に合っているか」（53.8%）、「仕事を覚えられるか」（52.3%）などといった仕事に関する不安が挙げられました【図2】。

【図2】 新社会人が、入社前に不安を感じる内容（複数回答）



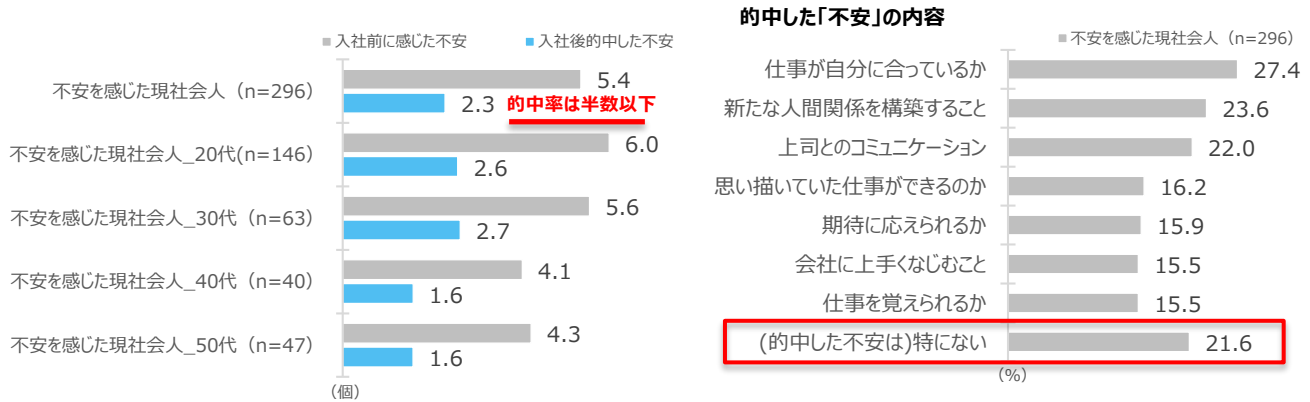
# 新社会人の50%以上は「コミュニケーション」に関する不安を抱えている

## ● 社会人になる前に感じた不安の的中率は半数以下！ 的中した不安が「特にない」人も約2割

では、入社前に感じた不安は入社後に的中するのでしょうか。現社会人に確認すると、現社会人が入社前に感じた不安の数が平均5.4個（17個提示中）、的中した不安の数は平均2.3個と、的中率は半数以下。今の新社会人と同様、現社会人も入社前に多くの不安を感じていましたが、その半分以上は杞憂に終わっているようです。

ちなみに的中した不安の内容は、「仕事が自分に合っているか」（27.4%）、「新たな人間関係を構築すること」（23.6%）、「上司とのコミュニケーション」（22.0%）の順ですが、いずれも2割台と低く、5人に1人は的中した不安は「特にない」（21.6%）と答えています〔図3〕。

【図3】 社会人になる前に感じた不安と社会人になって的中した不安



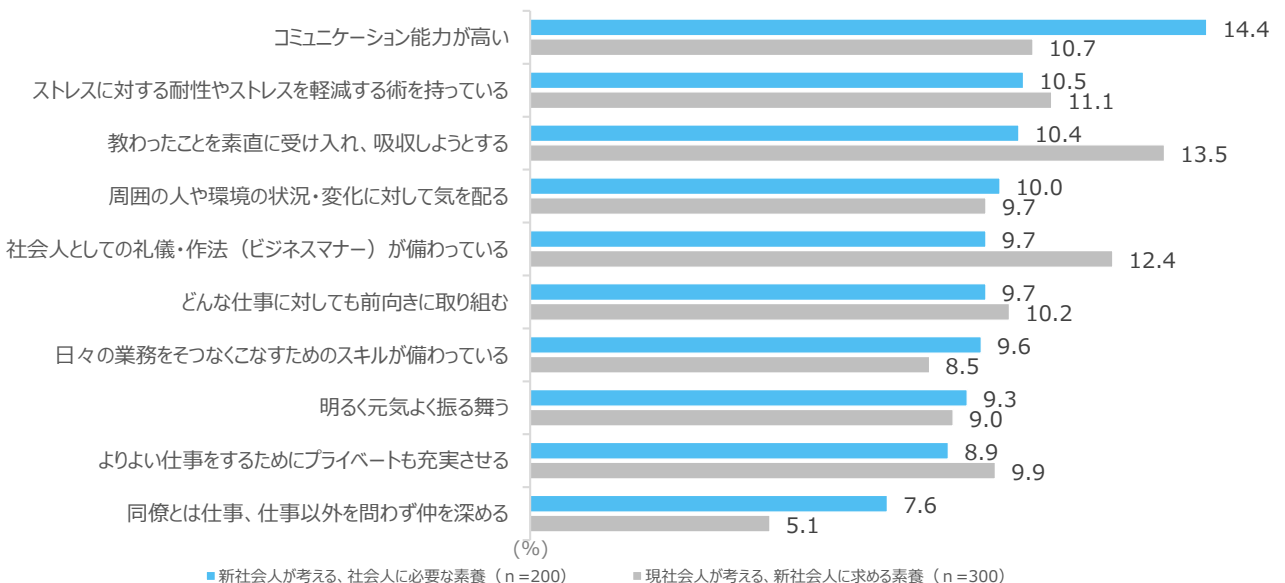
## ● 新社会人は、コミュニケーションのスキルだけではなく、素直さも重要

今の不安の大半は杞憂としても、新社会人はどのようなことを心がけた方がよいのでしょうか。

社会人にとって必要だと思われる素養を10項目提示し、合計で100%になるよう回答いただきました。当事者となる新社会人は、「コミュニケーション能力の高さ」（14.4%）を最も重要だと考えています。一方、現社会人が新社会人に求める素養は、「教わったことを素直に受け入れ、吸収しようとする」（13.5%）が最も高くなっています。新社会人が重視する「コミュニケーション能力の高さ」を重視する現社会人は10.7%で、「社会人としての礼儀・作法」（12.4%）や「ストレス対応力」（11.1%）の方がより重視されていることがわかりました〔図4〕。

新社会人が重視しているコミュニケーションスキルはもちろんのこと、社会人としての姿勢や態度など、仕事への向き合い方を重視する現社会人の先輩が多いのかもしれませんが。

【図4】 新社会人が考える、社会人に必要な素養と、現社会人が考える、新社会人に求める素養

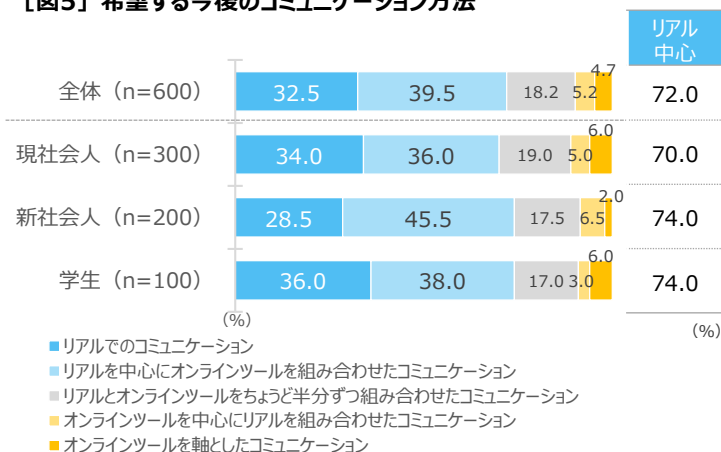


# 実は若年世代の方が「リアルなコミュニケーション」を求めている

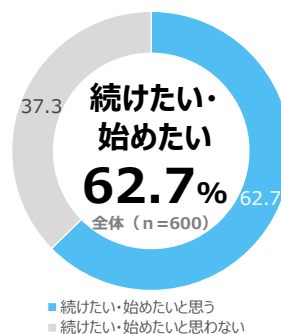
## ● コロナ禍後の人とのコミュニケーション、7割以上がリアルなコミュニケーションを望んでいる

今後の生活において、周囲の人とのコミュニケーションとしてどんな方法を取りたいかと聞くと、「リアルを中心にオンラインツールを組み合わせたコミュニケーション」（39.5%）や「リアルでのコミュニケーション」（32.5%）が多く、全体の7割以上（72.0%）がリアルでのコミュニケーションを望んでいます【図5】。オンラインツールを軸としたコミュニケーションを今後も続けたい（いまそうではない場合は「始めたい」）か確認すると、62.7%が「続けたい・始めたい」と回答したものの【図6】、オンラインツールによるコミュニケーションのメリットは享受しつつも、人とのコミュニケーションの中心はやっぱリアルでありたい…、と思っている人が多いようです。

【図5】 希望する今後のコミュニケーション方法



【図6】 日常生活における今後のオンラインコミュニケーションの取り入れ方

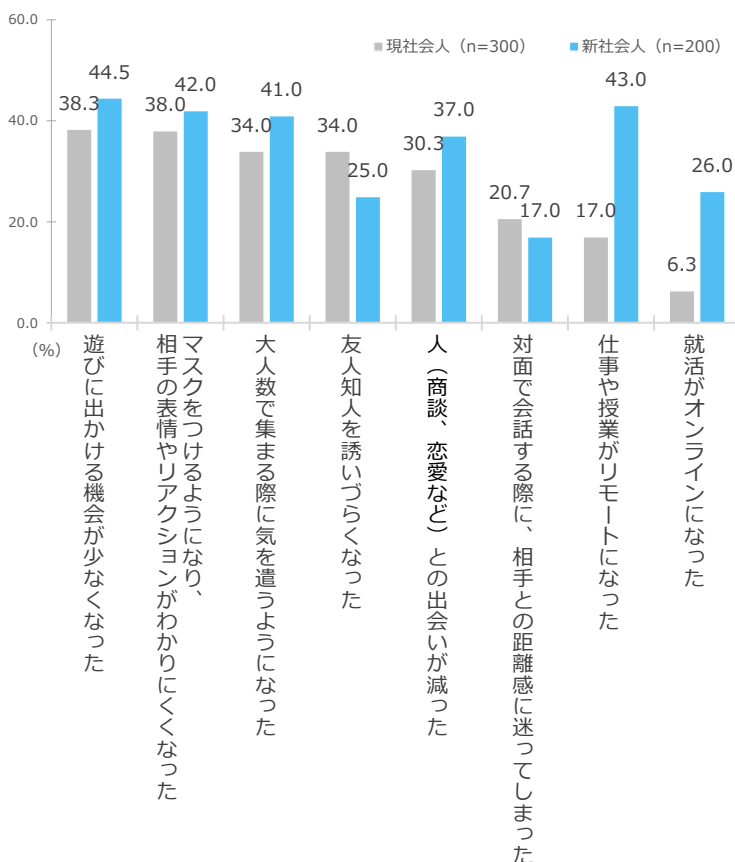


## ● コロナ禍後のコミュニケーション、現社会人より新社会人の方がよりわずらわしさを感じている

現社会人と新社会人に、コロナ禍以後のコミュニケーションで、わずらわしく感じたことを聞きました。

現社会人は、「遊びに出かける機会が少なくなった」（38.3%）、「マスクをつけるようになり、相手の表情やリアクションがわかりにくくなった」（38.0%）、「大人数で集まる際に気を遣うようになった」「友人知人を誘いづらくなった」（同率34.0%）の順となりました。一方、新社会人は、ほとんどすべての項目で現社会人よりわずらわしさのスコアが高くなっています。デジタルネイティブ世代とはいえ、コミュニケーションが制限されることには敏感なようです。わずらわしく感じることは現社会人と同じく「遊びに出かける機会が少なくなった」（44.5%）が1位ですが、次いで「授業（仕事）がリモートになった」（43.0%）を挙げ、現社会人が「仕事（授業）がリモートになった」ことをわずらわしく感じたのが17.0%とは対照的です。また、新社会人の4人に1人は「就活がオンラインになった」（26.0%）ことにもわずらわしさを感じたようです【図7】。

【図7】 コロナ禍後のコミュニケーション障壁（複数回答）



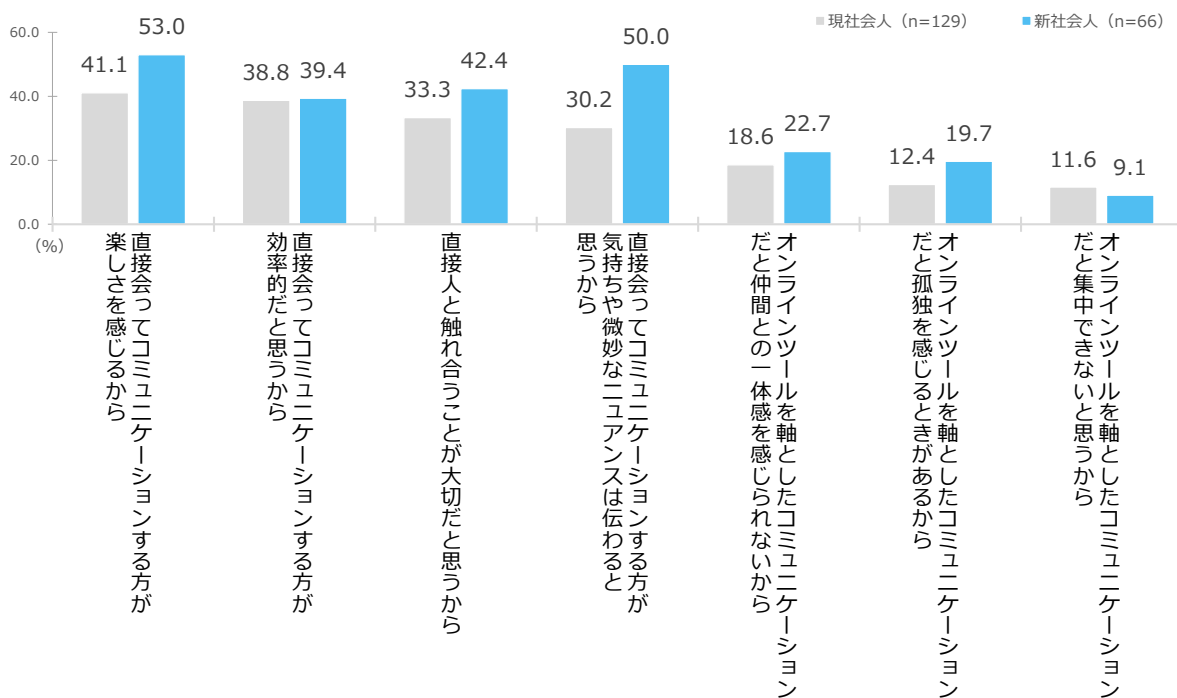
# 実は若年世代の方が「リアルなコミュニケーション」を求めている

## ● 現社会人よりデジタルネイティブの新社会人の方がリアルなコミュニケーションを重視

オンラインコミュニケーションを続けたい・始めたいと思わないと答えた人にその理由を確認すると、現社会人は「直接会ってコミュニケーションする方が楽しさを感じる」(41.1%)、「直接会ってコミュニケーションするほうが効率的」(38.8%)、「直接人と触れ合うことが大切」(33.3%)などが理由として多く挙げられました。新社会人では「直接会ってコミュニケーションする方が楽しさを感じる」(53.0%)、「直接会ってコミュニケーションする方が気持ちや微妙なニュアンスは伝わる」(50.0%)、「直接人と触れ合うことが大切」(42.4%)のスコアが現社会人と比べ高くなっています〔図8〕。

23年4月に社会人になる人(新社会人)はデジタルネイティブ世代ですが、デジタルを使いこなしているからこそ、リアルなコミュニケーションをより重視しているのかもしれませんが。

〔図8〕 オンラインコミュニケーションを続けたくない・始めたくない理由 (複数回答)





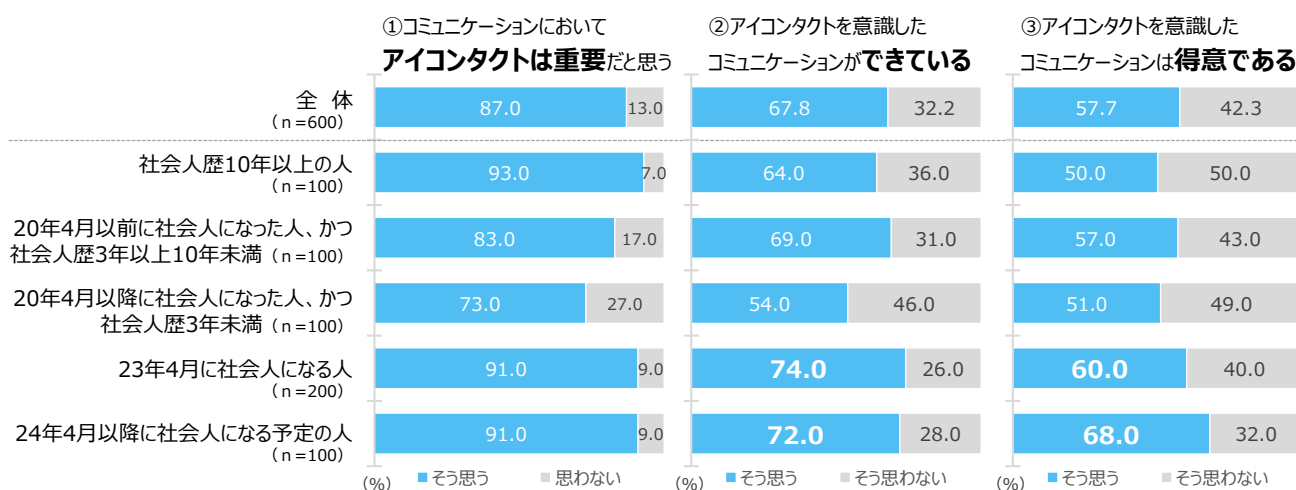
# ★ “瞳のチカラ”をもつ新入社員を「応援したい」先輩社員が50%以上

★入社1年以内の方

## ● 誰もが重要と認識する瞳を通じたコミュニケーションは、若年世代の方が得意

次に、言葉以外の手段を用いた非言語コミュニケーションのひとつである瞳を通じたコミュニケーションについて確認しました。コミュニケーションにおいて「アイコンタクトは重要」と答えた人は全体の87.0%と高いものの、アイコンタクトを意識したコミュニケーションが「できている」は67.8%、アイコンタクトを意識したコミュニケーションは「得意」と答えたのは57.7%に留まりました。アイコンタクトは重要だとわかっていても、なかなかうまくできないものようです。世代別に見ると、アイコンタクトを意識したコミュニケーションが「できている」が7割を超えて高いのが23年4月に社会人になる人（74.0%）と24年以降社会人になる予定の人（72.0%）、「得意」が6割を超えているのも23年4月に社会人になる人（60.0%）と24年以降社会人になる予定の人（68.0%）です〔図9〕。言語コミュニケーションと並び、瞳を通じたコミュニケーションも若い世代の強みとなりそうです。

【図9】アイコンタクトに対する考え方と自己評価



## ● 瞳を通じたコミュニケーションで、コロナ禍の就活もビジネスもうまくいく

アイコンタクトで、印象的な経験を自由記述で回答いただきました。すると、「就職活動での面接時に、マスク越しでの面接ではあったが、アイコンタクトを通して面接官の表情を読み取ることができたこと。鼻から下が見えない分、アイコンタクトを取ることが大切であると感じた。」（20代女性）、「愛想が良くない同僚に目を見て積極的に話しかけるようにしたら心を開いてくれた。」（20代男性）、「真剣な話は目を見て伝わるように話したら、相手側から真剣さが伝わったと言われた。」（30代男性）、「相手との会話の中で、しっかり聞いて貰えていると感じられる。」（40代女性）、「子供のスポーツの指導をしていた時があります。その際、子供たちや保護者の方とのコミュニケーションに苦労しましたが、いつでもまっすぐ目を見て話してくれるので信頼できると保護者に言われた時は、とても嬉しかったことがありました。」（50代女性）、など、アイコンタクトの効果を実感する体験談が多く寄せられました。

### アイコンタクトによる印象的な経験（その他自由回答抜粋）

- 相手に話したいことが伝わっているか不安だったが相手がニコッと笑っているのが目元から判断でき安心したこと。（20代女性）
- 相手の変化に気づけるようになった。（20代女性）
- 相手の目を見て話すことで自然に上を向くようになり明るく話すことができた。就職活動の面接では、下を向きがちであるという傾向がみられることを知り、自分は相手の目を見て話そうと心がけた。この結果相手から面接が楽しかったと言われる機会がたくさんあった。（20代男性）
- 相手の目に合わせてコミュニケーションを取ることによって、相手の話をよく覚えられるようになり、また相手にも自分の話を聞いてもらえるようになったと感じました。（20代男性）
- 普段はあまりしないが、ここの話し合いのときは全員の目を見るようにしながら話をすると、いつもより引き締まった空気になる。（30代男性）
- 目を見て相手が嫌そうな感じをしているのがわかるので、仕事の交渉する際には明らかに嫌そうな目をしている時には提案内容や話の内容を変えると、目がこやかに笑うので、相手が喜ぶ提案や話がどのようなかわかりやすい。（40代女性）
- 少しの感情の変化も目を見て話せば相手が何を思っているか感じ取れる事ができるため。（40代女性）
- お互いの気持ちを確かめ合える。（50代女性）

# ★ “瞳のチカラ”をもつ新入社員を「応援したい」先輩社員が50%以上

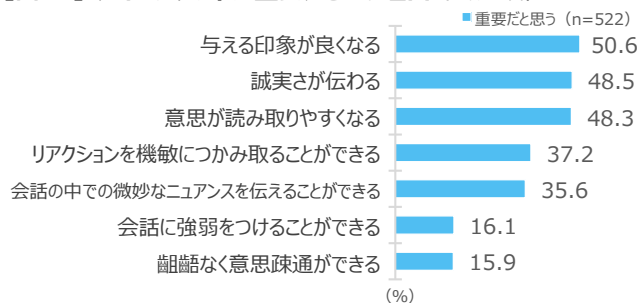
★入社1年以内の方

## ● アイコンタクトによって「印象が良くなる」「誠実さが伝わる」

図9でアイコンタクトは重要と回答した522人に、重要だと思う理由を確認したところ「与える印象が良くなると思うから」（50.6%）、「誠実さが伝わると思うから」（48.5%）、「意思が読み取りやすくなると思うから」（48.3%）が上位に挙げられました【図10】。

瞳を通じたコミュニケーションは、ビジネスだけでなく、人としての好感度の醸成にも役立つようです。

【図10】 アイコンタクトが重要だと思う理由（複数回答）

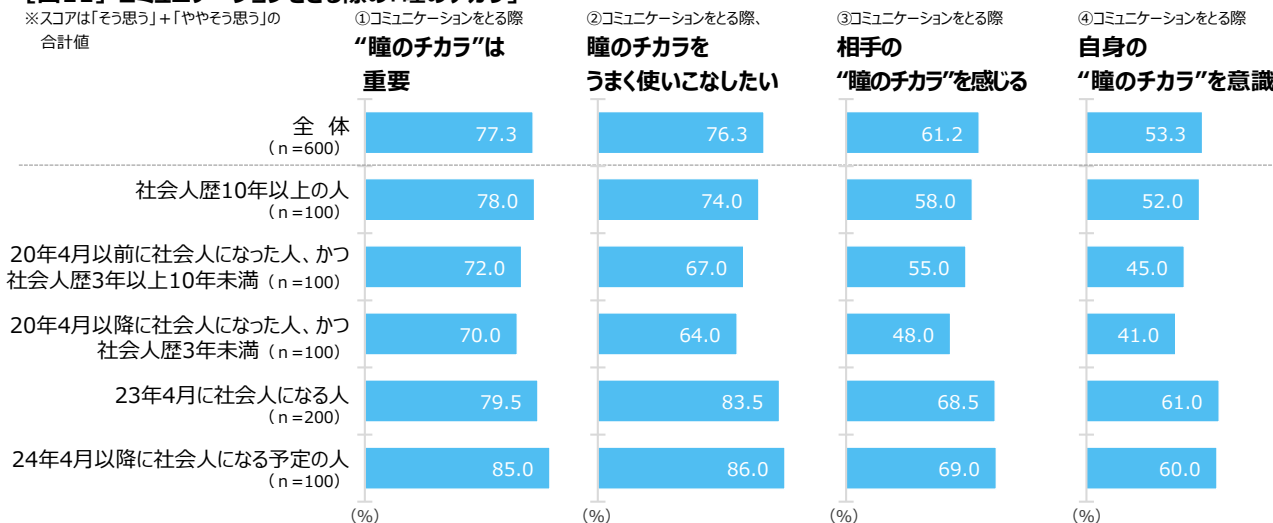


## ● 新社会人や学生は、“瞳のチカラ”の重要性を理解し、うまく使いこなしたいと考え、意識している

コミュニケーションをとる際の“瞳のチカラ”について確認すると、「“瞳のチカラ”は重要である」（77.3%）、「“瞳のチカラ”をうまく使いこなしたい」（76.3%）と、“瞳のチカラ”が重要であることを多くの人が認識しています。ですが、コミュニケーションをとる際、6割は「相手」の“瞳のチカラ”を感じている（61.2%）ものの、「自身」の“瞳のチカラ”を意識している（53.3%）は約半数とやや少なくなっています。世代別にみると、23年4月に社会人になる人（新社会人）や24年以降社会人になる予定の人（学生）は、“瞳のチカラ”が重要であると考え、自身の“瞳のチカラ”をより強く意識する傾向が見られました【図11】。

【図11】 コミュニケーションをとる際の「瞳のチカラ」

※スコアは「そう思う」+「ややそう思う」合計値



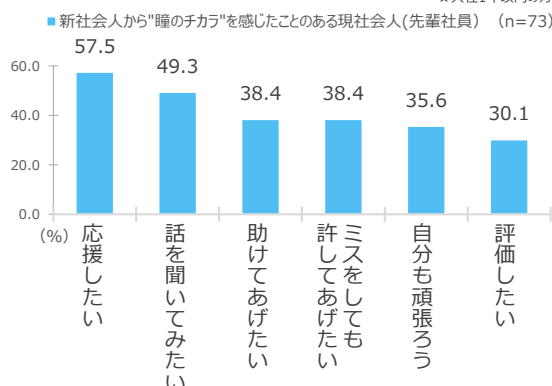
## ● “瞳のチカラ”を高めることは、現社会人の先輩からの応援やよりよいコミュニケーションへつながる

職場にいる新入社員（入社1年以内の方）から“瞳のチカラ”を感じたことがある現社会人に、その時感じた気持ちを確認しました。すると、「応援したい」（57.5%）、「話を聞いてみたい」（49.3%）と関心が高まり、約4割が「助けてあげたい」「ミスをして許してあげたい」（同率38.4%）と答えました。また、新入社員の“瞳のチカラ”を感じることで、現社会人の3人に1人は「自分も頑張ろう」（35.6%）という前向きな気持ちになっています【図12】。

新社会人は、“瞳のチカラ”の重要性を理解し意識していますが、“瞳のチカラ”を高めることは、現社会人からの好印象にもつながるようです。

【図12】 “瞳のチカラ”を感じる新入社員\*の方への気持ち（複数回答）

★入社1年以内の方



## その他調査結果

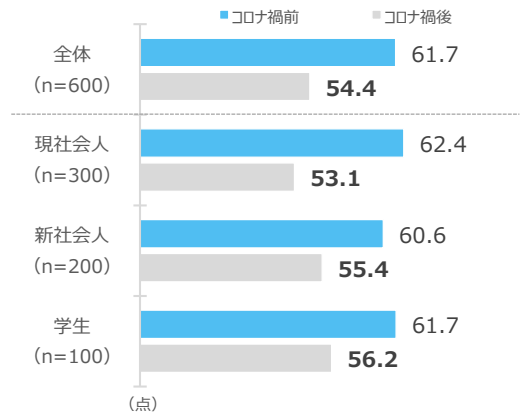
### ● コロナ禍のコミュニケーション、影響の大きい現社会人と柔軟に対応している新社会人

コロナ禍生活も4年目となりますが、コロナ禍前と後での周囲の人とのコミュニケーションの満足度を100点満点で確認しました。

すると、コロナ禍前は61.7点に対しコロナ禍後は54.4点となり、コミュニケーションの満足度は低下しています。属性別に見ると、コロナ禍前の満足度が高いのは現社会人で62.4点ですが、コロナ禍後は53.1点と9点以上も低くなっています。一方、新社会人はコロナ禍前の満足度が60.6点、コロナ禍後の今が55.4点、学生はコロナ禍前61.7点、コロナ禍後56.2点と、満足度は下がってはいるものの、現社会人より下げ幅は小さくなっています〔図13〕。

現社会人がコロナ禍後の新たなコミュニケーションで大きな影響を受けている中、若い世代は、現社会人と比べるとコロナ禍後のコミュニケーションにうまく対応しているようです。

〔図13〕 コロナ禍前と後のコミュニケーション満足度



### ● 現社会人も新社会人も「聞き上手」！ でも「話し上手」にはまだまだ至らず

自分のコミュニケーション力について確認すると、「①相手の話をよく聞き、適切な相づちをうつことができる」と答えたのは全体の84.2%と高く、23年4月に社会人になる人では約9割（89.5%）、社会人歴10年以上の人（80.0%）では8割が“聞き上手”を自認しています。しかし、「②初対面の人に対しても積極的に話しかけることができる」（46.5%）、「③話しかけられるのを待つのではなく、自ら話しかけることができる」（49.8%）、「④大人数が居る中でもうまく会話の輪に加わることができる」（48.3%）など、自ら能動的に交流することができる」と答えた人は全体の半数以下で、まだまだ“話し上手”とはいえにくいようです〔図14〕。

とはいえ、若い世代は、能動的なコミュニケーションをオトナ世代よりうまくこなせる傾向があります。新社会人は社会人歴の長いオトナたちに比べ、コミュニケーションスキルが高いため、入社後もそれを活かし積極的にコミュニケーションを図ってみたいかがでしょうか。

〔図14〕 コミュニケーションに対する自己評価

